

市交際費の支出状況



令和6年1月分

支出種別	区分	件数	金額(円)
弔慰	今月分	2	10,000
	累計	66	241,500
見舞い	今月分	0	0
	累計	0	0
御祝	今月分	1	2,000
	累計	25	128,000
賛助	今月分	0	0
	累計	1	6,100
激励金	今月分	0	0
	累計	0	0
接遇	今月分	2	1,680
	累計	46	116,612
会費	今月分	9	23,000
	累計	31	126,000
その他	今月分	0	0
	累計	0	0
合計	今月分	14	36,680
	累計	169	618,212

※くわしくは市ホームページに掲載しています

問い合わせ

総務課 秘書係

☎0952-75-2115

「拉致問題を考える」

北朝鮮による政府認定の拉致被害者17人のうち、5人が帰国されてから今年で22年になります。「拉致」を辞書で調べると、「無理やりに連れていくこと」とあります。この拉致行為が、皆さんの自宅から1分ぐらいの場所まで起こったとしたらどう思われますか。信じられないと言われる方もいると思いますが、拉致被害者の一人、横田めぐみさんは、自宅から1分程離れた場所で拉致されて、これまでの日常を奪われたのです。実弟の横田拓也さんの講演会で、この話を地図や写真を交えながら聞いた時は、「怖い」と思いました。拉致問題は、いまだに解決し

tomoniki

ていません。

現在、拉致被害者のご家族の殆どが、70代〜90代と高齢になられています。問題が解決し、拉致被害者とそのご家族が手を取り、抱き合っ喜び合うには、時間がありません。私達に何ができるのか。精々、署名するぐらいだと言われるかもしれませんが。それでも、拉致被害者の5人が帰国できたのは、312万筆もの署名が集まり、私たち国民が一丸となった成果と言えます。他人事と思わず、私たち一人ひとりが、拉致問題を自分自身に起こった身近な事として関心を寄せ続けましょう。一日も早く全ての拉致被害者を取り戻すという強い決意を示すことは、問題解決の大きく強力な後押しとなるのです。

社会教育指導員

小松康之

Message for citizen



市長コラム



2月19日に参議院行政監視委員会に参考人として出席し、意見を述べました。現在の各種行政の実情や地方における実態などを踏まえ、今後の国としての政策評価や改善に活かす審議の参考にされるため3人の参考人が招かれ意見陳述しました。私からは首長を代表しての意見です。のべ36名の議員が参加された委員会室で、薬害エイズ問題でも大いに尽力された川田龍平委員長の進行で行われました。

2月21日記

市長 横尾 俊彦

参議院で意見を述べました

まず各参考人から1人15分以内で意見発表し、その後、2時間15分の間に各党各会派から9人の質疑に回答しました。私からは、①自治体経営の充実、②デジタルガバナンスの推進、③DX時代の人材育成（ICT教育を含む）、④地方自治体や民間の創造性・活力を伸ばす規制改革、⑤人材確保と人材資源の重要性、⑥2040年問題の克服について述べました。

質疑では多久市の独自の取組みやデジタル改革、市役所業務改革などDXに関する質問が多く、熱心な質疑になりました。途中ではリアルな会議とオンライン会議のどちらが良いと思うかの問いもあり、双方のメリットを活かせるように選択活用できる体制が好ましいとコメントしました。実際、この会議に直接出席したからこそ、国会の空気感や委員の皆さんの質問趣旨を直に感じることもでき、それぞれ細やかに回答できました。貴重で有意義な時間でした。発言で特にお願いしたのは、国において望ましい自治体行政マネジメントパッケージを開発し、全国の自治体が利用できるように改革すれば、コスト削減や広域利用、災害時対応も可能になるということです。今後の国会と政府のリードに大いに期待するとともに、自治体としても努力していきます。